

## 令和元年度 公益財団法人大分県体育協会第2回理事会

日時：令和元年8月30日（金）13時30分～

場所：昭和電工武道スポーツセンター

### 理事

出席者 麻生 益直 工藤 利明 加藤 寛章 安部 亮 井上 倫明  
(22名) 衛藤 賢 工藤 啓記 佐藤 彰倫 土谷 忠昭 藤本 学  
牧 和志 松本 悠輝 三好 正昭 今富 寛二 榎 英樹  
後藤 博美 竹井 信之 友岡 正春 中村 和好 牧野 新吾  
真砂 昌史 渡邊 光廣

### 欠席者

(7名) 相馬 尊重 野見山裕治 大場 俊二 神志那静清 後藤 修二  
花木 敏寿 山口 誠

### 監事

出席者 武石 哲也 矢部 正秋  
(2名)

欠席者 倉掛 賢裕  
(1名)

資格確認 渡邊総務部長が出席者理事22名で、定数の過半数であることから、本会  
定款第36条により、本会が成立することを報告した。

#### 1. 開会のことば

渡邊総務部長が開会のことばを述べた。

#### 2. あいさつ

公益財団法人大分県体育協会会長 麻生 益直があいさつを行った。

本日は、第2回理事会を開催いたしましたところ、皆様方には、何かと御多用の中、  
そして暑さが続く中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、皆様には、  
平素から本県スポーツの振興に格別の御支援を賜っておりますことに、改めて厚く御  
礼を申し上げます。

さて、「第74回国民体育大会（茨城国体）」出場に向けた第39回九州ブロック大会  
も、明日から開催のハンドボール競技成年女子を残すのみとなりました。ここまでの本  
県の成績は、夏季・秋季合わせますと25競技で57の代表権を獲得しています。私も  
現地で応援しましたが、多くの競技で、来年に国体を控えている鹿児島県が大いに存在

感を示しておりました。しかしながら、チーム大分の代表として出場した各競技の選手・監督は、最後の最後まで絶対に諦めない「チーム大分魂」を存分に見せてくれました。監督・選手・関係者の皆さんに心から敬意を表したいと思います。九州ブロック大会での結果により、本県は35競技が茨城国体に出場し、チーム大分として目標である「天皇杯得点1,000点」獲得に挑むこととなります。まずは、9月7日から始まる会期前実施競技3競技（新体操、ビーチバレー、水泳）が、チーム大分の先陣を切るようになります。競泳平泳ぎ日本代表の渡辺一平選手やインターハイを制した田中大寛選手、山本馨選手などもチーム大分の一員として出場し、その活躍が大いに期待されます。1点でも多くの競技得点を獲得し、本大会に弾みをつけていただきたいと思います。茨城国体の主日程は、9月28日（土）に始まります。各競技には、コンディションを整えることはもちろんのこと、最高の準備で大会に臨んでいただくようお願いしているところです。理事の皆様には、引き続き、御支援・御協力をお願い申し上げます。

結びに、本日は、茨城国体の大分県選手団決定が主な議題となっております。皆様方には、十分にご審議をいただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

#### 議長選出

理事会規定第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっていますので、定款第35条により麻生会長に議長をお願いします。

また、議事録署名につきましては、定款第37条に出席した会長・副会長及び監事は議事録に記名押印するとなっておりますので、その旨よろしくお願いいたします。

以下、議長による進行。

#### 3. 議事

- 議案1 第39回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団について
- 議案2 第39回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団について
- 議案3 第74回国民体育大会大分県代表団について
- 議案4 ロゴマークについて

【議案1 第39回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団について】

【議案2 第39回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団について】

伊藤事務局長が上記事項について一括して説明。以下説明内容。

それでは、議案1の第39回九州ブロック大会夏季大会 議案2秋季大会代表団につきまして、ご説明させていただきます。レジュメ2ページをお開きください。

九州ブロック大会の大分県代表団の決定につきましては、県内予選後、参加申込みまでの期間が短く、理事会を開催するいとまがないことから、会長に事前承認していただき、選手団を派遣した次第でございます。本日は、改めてこの理事会で選手団について御審議をお願いいたします。

まず、議案1の第39回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団についてですが、役員として、団長、工藤利明副会長、副団長、井上倫明常務理事、総監督、加藤寛章専務理事、ほか総務2名の計5名、旗手は、カヌー競技少年男子の米光陸選手、選手数は、10競技29種別に監督・選手147名、本部役員を合わせた総計152名の編成で大分県代表団を佐賀県を中心に開催されました第39回ブロック大会夏季大会に派遣いたしました。3ページから4ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。

次に5ページをお開きください。議案2の第39回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団についてですが、役員として、団長、工藤利明副会長、副団長、井上倫明常務理事、総監督、加藤寛章専務理事、ほか総務員17名の計20名、旗手は、軟式野球競技成年男子の五十川諒選手、選手数は6ページにございますとおり、21競技60種別、監督・選手547名、本部役員を合わせた総計567名の編成で、第39回ブロック大会秋季大会に派遣いたしました。6ページから13ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。以上で第39回九州ブロック大会夏季・秋季大会大分県代表団に係る説明を終わります。

(麻生議長が、議案1、2についての質問を議場に諮った。)

#### 質問 麻生 益直 氏

剣道競技は、成年男子は全県国体に出場しますが、少年男女、成年女子は九州ブロック大会があると認識していました。この名簿を見ると成年女子の欄がありませんので、説明していただきたいです。

#### 回答 伊藤事務局長

剣道競技成年女子の不参加についてお答えいたします。結論から申し上げますと、監督資格を有する選手がいなかったということです。実施要項では、剣道競技成年女子の監督は選手が兼ねることになっております。監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認剣道コーチ1、又は、公認剣道コーチ2のいずれかを有するものとなっております。大分県剣道連盟では、今年度、大将区分(40歳以上)への出場を予定していた選手が、今年4月から監督資格を有すると考えていましたが、実際には、来年の4月1日付けでの認定で、今年は、監督資格を有しないことが分かり、出場を辞退せざるを得ない状況となり、不参加となりました。今後は、このような不参加という事態にならないよう、しっかり指導して参りたいと思います。以上です。

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案 1、2 を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案 3 第 74 回国民体育大会大分県代表团について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下説明内容。

それでは、第 74 回国民体育大会大分県代表团につきましてご説明させていただきます。レジュメの 14 ページをお開きください。開催期日は、主日程が 9 月 28 日（土）から 10 月 8 日（火）の 11 日間となっております。また、会期前実施競技として水泳競技、新体操競技、ビーチバレーボール競技が 9 月 7 日（土）から 16 日（月）まで開催されることとなっております。開催地は、茨城県内の 27 市 5 町 1 村となっております。本部役員といたしまして、団長に 麻生益直会長、副団長に工藤利明副会長、総監督に加藤寛章専務理事、ほか総務員 17 名でございます。

15 ページをお開きください。参加人数一覧表でございます。本県代表团は、35 競技 87 種別に出場し、監督 54 名、選手 384 名、合計 438 名に、本部役員 20 名を合わせた総計 458 名の編成でございます。各競技の監督・選手ですが、15 ページから選手名簿を掲載してございます。順に説明いたしますので名簿を見ながらお聞き下さい。

まず、陸上競技ですが、全種別の出場で監督 2 名、選手 29 名、計 31 名です。日本選手権 200m で優勝した兒玉芽生選手や少年勢の活躍が期待されます。

次に、水泳競技です。競泳、飛込、オープンウォータースイミングの出場で、監督 4 名、選手 26 名、計 30 名です。競泳では、世界水泳出場の成年男子平泳ぎの渡辺選手、インターハイ 2 冠少年男子 A の田中選手、飛込では、インターハイ優勝の山本馨選手が出場し活躍が期待されます。

次に、サッカー競技です。女子・少年男子の 2 種別の出場で、監督 1 名、監督兼選手 1 名、選手 31 名、計 33 名です。九州ブロック大会の激戦を勝ち抜いた女子に活躍を期待したいと思います。

次に、テニス競技です。成年男子、少年男子、少年女子の 3 種別に、監督 2 名、選手 6 名、計 8 名です。力のある成年男子、少年男子の活躍を期待したいと思います。

次に、ボート競技です。全種別に、監督 3 名、選手 21 名、計 24 名です。成年女子・少年男子のダブルスカルなど上位入賞が期待されます。

次に、ボクシング競技です。成年男子 1 種別に、監督 1 名、選手 5 名、計 6 名です。九州ブロック大会優勝の木本・伊藤選手を中心に上位入賞を期待したいと思います。

次にバレーボール競技です。6 人制は、少年女子の 1 種別、ビーチバレーボールは、少年男子と少年女子の出場で、監督 3 名、選手 16 名、計 19 名です。少年女子の東九州龍谷高校に、上位入賞が期待されるところです。

次に体操競技です。新体操少年女子のみの出場です。監督1名、選手5名、計6名です。会期前開催競技ですので、チーム大分に勢いをつけるためにも、活躍を期待したいと思います。

次に、レスリング競技です。成年男子、女子、少年男子の3種別の出場、監督2名、選手15名、計17名です。昨年を上回る活躍を期待したいと思います。

次に、セーリング競技です。全種別の出場、監督2名、選手14名、計16名です。成年男子の470級の活躍を期待したいと思います。

次に、ウェイトリフティング競技です。成年男子、少年男子の2種別の出場、監督1名、選手7名、計8名です。成年男子の赤松選手、インターハイで優勝した首藤選手の活躍が期待されます。

次に、ハンドボール競技です。少年男子、少年女子の2種別の出場、監督2名、選手24名、計26名です。少年男女ともに、大活躍を期待したいと思います。

次に、自転車競技です。全種別に、監督2名、選手11名、計13名です。成年男子一丸選手・少年男子生野選手を中心に、昨年以上の競技得点獲得を狙います。

次に、ソフトテニス競技です。成年男子、成年女子、少年女子の3種別の出場、監督3名、選手15名、計18名です。成年女子・少年女子とも九州ブロック1位通過であります。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、卓球競技です。成年女子、少年男子の2種別の出場、監督2名、選手6名、計8名です。九州ブロック1位通過の少年男子の活躍に期待したいと思います。

次に、軟式野球競技です。成年男子1種別に監督兼選手1名、選手15名、計16名です。安定した投手力に期待したいと思います。

次に、相撲競技です。成年男子と少年男子の2種別に、監督2名、選手8名、計10名です。決勝トーナメントを目指し、粘り強い戦いを期待したいと思います。

次に、馬術競技です。成年女子、少年の2種別の出場、監督1名、ホースマネージャー1名、選手4名、計6名です。少年団体障害飛越に期待がかかります。

次にフェンシング競技です。成年男子、少年女子の2種別の出場、監督1名、監督兼選手1名、選手5名、計7名です。昨年につきチーム大分の得点源として活躍を期待したいと思います。

次に、柔道競技です。成年男子のみの出場、監督1名、選手5名、計6名です。新戦力が加わり戦力が充実してまいりました。

次に、ソフトボール競技です。成年女子のみの出場、監督1名、選手13名、計14名です。日本文理大学出身のふるさと選手と大学生のチームです。上位入賞を期待したいと思います。

次に、バドミントン競技です。成年女子のみの出場、監督1名、選手3名、計4名です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、弓道競技です。成年男子、成年女子の2種別の出場、監督1名、選手6名、

計7名です。今年も活躍を期待したいと思います。

次に、ライフル射撃競技です。全種別に、監督1名、選手13名、計14名です。チーム大分の得点源として大活躍を期待したいと思います。

次に、剣道競技です。成年男子のみの出場、監督兼選手1名、選手4名、計5名です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、ラグビーフットボール競技です。成年男子のみの出場、監督兼選手1名、選手10名、計11名です。九州ブロック大会の激戦を勝ち抜き代表権を獲得しました。活躍を期待したいと思います。

次に、スポーツクライミング競技です。成年男子、少年男子の2種別の出場、監督2名、選手4名、計6名です。成年男子の上位入賞を期待したいと思います。

次に、カヌー競技です。全種別に、監督2名、選手8名、計10名です。成年男子森田選手・少年男子米光選手を中心に、高得点が期待されます。

次に、アーチェリー競技です。成年男子、成年女子、少年男子、の3種別の出場、監督2名、選手9名、計11名です。成年女子・少年男子の活躍を期待したいと思います。

次に、空手道競技です。全種別に、監督1名、選手9名、計10名です。成年女子・大野選手に国体連覇の期待がかかります。

次に、クレール射撃競技です。監督兼選手1名、選手5名、計6名です。戦力が充実してまいりました。活躍を期待したいと思います。

次に、なぎなた競技です。成年女子、少年女子の2種別に、監督1名、選手6名、計7名です。昨年以上の競技得点獲得を狙います。

次に、ボウリング競技です。成年男子、少年女子の2種別の出場、監督2名、選手6名、計8名です。チーム力を発揮して上位入賞の期待がかかります。

続いて、ゴルフ競技です。成年男子、女子、少年男子の3種別の出場、監督2名、選手9名、計11名です。力をつけてきていますので活躍を期待したいと思います。

最後に、トライアスロン競技です。成年男子、成年女子の2種別に監督2名、選手4名、計6名です。成年男子・新田選手の活躍が期待されます。

以上、大変長くなりましたが、第74回国民体育大会大分県代表団につきまして説明させていただきました。

なお、今週末に行われます、九州ブロック大会ハンドボール競技成年女子の結果により、選手団の追加がある可能性がございます。その場合には、選手が決定次第、理事の皆様方に御承認いただきたいと思っておりますので、このことも併せましてご審議をお願いいたします。

(麻生議長が、議案3についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案3を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

#### 【議案4 ロゴマークについて】

伊藤事務局長が上記事項について一括して説明。以下説明内容。

それでは、大分県体育協会ロゴマークについてご説明いたします。レジュメ22ページを御覧ください。「豊後梅マーク」は、第21回国民体育大会（1巡目大分国体）に大分県を表すマークとして作成されました。当時の大分国体事務局班員と色彩デザイン研究委員を中心にデザインされ、大分県花・県木である豊後梅を基調としたマークが作成されていました。大分国体時は、中央に国体マークが使用されていましたが、大会終了後に「大分」の文字へと変更され、印刷物やワッペン等に今日まで使用してきた経緯がございます。そこで、本会はこれまで以上に運営方針に基づき事業目標を達成するためには、本会におけるブランドイメージの向上が不可欠であります。今回新たにロゴマークとして、これまで多くの県民に愛されてきた「豊後梅マーク」を定めることで、本会ブランドイメージの向上はもとより、より多くの県民の理解と関心が得られたスポーツ団体となることが期待できると思います。またこれらは、本会の財政基盤の確立及び財務体制の強化へと繋がり、結果として安定的な法人経営が実現するものと考えます。以上の理由から、大分県スポーツ協会のロゴマークとして定めたいと考えます。具体的な使用例といたしまして、ホームページでの掲載、大分県スポーツ協会旗や事務局看板の作成、印刷物やロゴマークが印字されたラッピング自動販売機の導入などです。

次にデザインについてです。デザインはこれまでの「豊後梅マーク」にロゴタイプを加えた、ロゴマークとし、カラー・モノクロタイプ別に、刷り色と、フォントを指定しています。

次に取り扱いについてです。（1）～（4）の内容となります。以上が、ロゴマークについての説明でございます。ご審議よろしく願いいたします。

（麻生議長が、議案4についての質問を議場に諮ったが、特になかった。）

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案4を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

#### 4. 報告事項

- （1） 令和元年度事業報告について
- （2） 各種大会成績について
- （3） 令和元年度第39回九州ブロック大会成績について
- （4） 第74回国民体育大会に向けた競技力の現状について
- （5） スポーツ団体ガバナンスコードについて
- （6） 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度について

【(1) 令和元年度事業報告について】

伊藤事務局長が上記事項について一括して説明。以下説明内容。

それではご説明いたします。レジュメの24ページをお開きください。報告事項(1)の令和元年度事業報告についてですが、5月14日に開催いたしました第1回理事会以降の主な事業につきまして、報告させていただきます。

No.2、5月20日～6月5日にかけて、競技団体ヒアリングを実施いたしました。各競技団体強化担当者の出席のもと、競技力向上対策本部と合同で茨城国体に向けた強化対策について協議を行いました。

No.4、5月30日に定時評議員会を開催しまして、令和元年度事業報告、決算報告をご審議いただき、承認していただきました。

No.11、6月13日に第1回スポーツ医科学委員会を開催し、副委員長の選任、平成30年度事業報告、令和元年度事業計画を報告するとともに、メディカルチェックのデータの取り扱いについて審議いたしました。

25ページをご覧ください。No.14、6月16日に大分県スポーツ指導者研修会を開催し、92名の公認指導者が参加し、指導者としての資質向上を図ることを目的に開催されました。

No.15、6月17日にスポーツ少年団指導者制度改定に関わる説明会を開催し、各市町村担当者出席の下、改定のポイントや留意事項について説明を行いました。

26ページをご覧ください。No.26、No.28、7月14日・25日及び8月8日に優秀指定選手メディカルチェックにおける整形外科的検査・栄養サポートを実施いたしました。こちらの事業は、今年度より新たな検査内容・体制でスタートしたものであります。今年度指定のホッケー競技少年男子・女子の拠点練習会場へ、スポーツ医科学委員会専門部会員が出向き、検査・サポートを実施いたしました。

No.30、8月2日から6日にかけて、第46回日独スポーツ少年団同時交流の受け入れ事業を実施しました。今回はドイツスポーツユースの団員8名を豊後大野市に迎え、なぎなたや馬術等のスポーツ交流が実施されました。

No.31、8月9日から11日にかけて、第39回九州ブロックスポーツ少年団ミニバスケットボール交流大会を九州各県から510名参加のもと開催し、大分県バスケットボール協会、大分県スポーツ少年団リーダー会などの協力のもと、競技はもちろんのこと、団員同士の交流を深めることができました。事業報告については以上です。

(麻生議長が、報告事項(1)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)



## 【(2) 各種大会成績について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下説明内容。

それでは、報告事項(2)の「各種大会成績」について報告いたします。レジュメの27ページをお開きください。5月14日以降の成績をまとめたものでございますが、※印で記載のように、中学生は「全国大会ベスト8以上」、高校生・社会人は「九州大会ベスト4以上・全国・国際大会ベスト8以上」の成績を掲載しています。本日は全国大会の優勝及び国際大会の入賞を報告させていただきます。

28ページ、陸上競技、2019日本学生陸上競技個人選手権大会において、福岡大学の松清和希選手が男子400mにおいて、同じく福岡大学の兒玉芽生選手が女子100mで優勝いたしました。29ページ、第103回日本陸上競技選手権大会兼ドーハ2019世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考競技会女子200mにおいて、同じく兒玉芽生選手が優勝いたしました。

31ページ、水泳競技、ジャパンオープン2019男子200m平泳ぎにおいて、本県出身でトヨタ自動車の渡辺一平選手が優勝いたしました。同じく渡辺選手は、第18回世界水泳選手権大会男子200m平泳ぎにおいて、第3位に入賞いたしました。また、第87回日本高等学校選手権水泳競技大会において、男子3m飛板飛込で別府翔青高校の山本馨選手が優勝いたしました。

32ページ、同大会において、男子100m自由形及び200m自由形で別府翔青高校の田中大寛選手が両種目優勝いたしました。なお、別府翔青高校は、飛込種目男子学校対抗でも優勝しております。

続いて、第59回全国中学校水泳競技大会200m平泳ぎにおいて、大分市立南大分中学校の高橋功選手が優勝いたしました。また、第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会女子14・15歳高飛び込み及び3m飛板飛び込みにおいて、大分ダイビングクラブの望月来華選手が優勝、また、女子12歳～18歳3mシンクロ飛板飛び込みにおいて、望月・伊南ペアが優勝し、望月選手は、3冠を達成いたしました。また、同大会男子13・14歳200m平泳ぎにおいて、ルネサンス大分の高橋功選手が優勝いたしました。同じく、男子18歳以下チャンピオンシップ50m自由形・100m自由形・200m自由形において、別府翔青高校の田中大寛選手が優勝し3冠を達成いたしました。

33ページ、テニス競技、2019ダンロップ・スリクソン・カップ全国選抜ジュニアテニス選手権大会男子シングルス14歳以下において、ラフ所属の前田優選手が優勝いたしました。

ボート競技、第97回全日本選手権大会女子舵手なしペアにおいて、立命館大学の高野晃帆選手が優勝しました。

34ページ、2019年U23世界選手権大会女子舵手なしペアにおいて、同じく高

野選手が第8位に入賞しました。

続きまして、バレーボール競技、第71回全日本9人制バレーボール実業団女子選手権大会9人制において、大分銀行が優勝いたしました。

36ページ、ウェイトリフティング競技、2019年度第79回全日本ウェイトリフティング選手権大会男子89kg級において、釘宮整形外科リハビリクリニックの赤松哲郎選手が優勝いたしました。また、第66回全国高等学校ウェイトリフティング競技選手権大会男子73kgスナッチ及びトータルにおいて、大分工業高校の首藤佑希選手が優勝いたしました。

40ページ、相撲競技、ぎふ清流国体開催記念第10回全日本女子相撲郡上記念大会一般の部軽重量級において、朝日大学の矢口菜美選手が優勝いたしました。

続きまして、フェンシング競技、アジアフェンシング選手権大会2019女子フルーレ団体において、本県出身で星槎国際高等学校の上野優佳選手が優勝いたしました。

41ページ、2019年度フェンシング世界選手権大会女子フルーレ個人において、同じく上野選手がベスト8に入賞いたしました。

続きまして、柔道競技、2019年グランプリ・ザグレブ大会女子78kg級において、本県出身でALSOKの梅木真美選手が優勝いたしました。

43ページ、ライフル射撃競技、2019年度第45回全日本ライフル射撃競技選手権大会混合ビームピストルにおいて、由布高校の三ヶ尻・下津選手が優勝いたしました。また、2019年度全国夏季ピストル射撃競技大会女子25mピストル60発において、大分県警察の財津美加選手が優勝いたしました。

44ページ、カヌー競技、文部科学大臣杯令和元年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会男子200m・500mカナディアンシングルにおいて、高田高校の米光陸選手が両種目で優勝いたしました。また、男子200m・500mカナディアンペアにおいて、岩永・荒金ペアが両種目優勝いたしました。また、男子200mカナディアンフォアにおいて、米光・岩永・荒金・中園チームが優勝いたしました。

45ページ、アーチェリー競技、第67回全日本実業団アーチェリー大会混合コンバウンドにおいて、小田開発工業の野々下進選手が優勝いたしました。

続きまして、空手道競技、KARATE1プレミアリーグ上海2019女子形において、大分市消防局の大野ひかる選手が3位に入賞いたしました。

47ページ、ボウリング競技、第52回全日本シニアボウリング選手権大会女子ハイシニア2人チームにおいて、馬場・安東ペアが優勝いたしました。以上で各種大会の成績の報告を終わらせていただきます。

(麻生議長が、報告事項(2)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

【(3) 令和元年度第39回九州ブロック大会成績について】

【(4) 第74回国民体育大会に向けた競技力の現状について】

伊藤事務局長が上記事項について一括して説明。以下説明内容。

それでは、報告事項(3) 令和元年度第39回九州ブロック大会成績について、(4) 第74回国民体育大会に向けた競技力の現状について報告いたします。ご承知のとおり、九州ブロック大会は、今週末にハンドボール成年女子の試合が残され、全日程終了していないため、本日は、8月26日時点の成績報告をさせていただきます。

「第39回九州ブロック大会成績一覧」とある別冊資料の1ページをお開きください。この表は、第39回九州ブロック大会の夏季・秋季大会をあわせました九州各県の代表権獲得数と順位の一覧表でございます。太線で囲んでおります大分県を御覧ください。夏季大会は26、秋季大会は31の代表権を獲得し、夏季、秋季を合わせた総合では、昨年を上回る57の代表権を獲得、順位は九州第2位でございました。また、他県の状況は、来年に国体を控えた鹿児島県が昨年より、代表件数を6つ伸ばし、4年後に国体を控えた佐賀県が5つ代表権を伸ばしました。

2ページから4ページにかけては、夏季、秋季それぞれの競技種別ごとの代表権獲得一覧表でございます。4ページ下段で夏季・秋季合計とあるところをご覧ください。代表権獲得状況ですが、上位通過の代表権獲得数の前年度との比較では、3位通過は同数、2位通過は5減、1位通過は7増で、合わせますと昨年以上を2つ上回っている状況です。代表権を獲得した競技数については昨年より1増の25競技でございました。

5ページ以降は競技ごとの試合結果でございます。それぞれの説明は省略させていただきますので、後刻ご確認いただきたいと思います。

続きまして、レジュメ48ページをご覧ください。こちらは、九州ブロック大会における大分県代表団の状況であります。

はじめに得点分類別代表権獲得状況をご覧ください。こちらの表は、秋季・夏季・合計で標記されています。昨年度との合計比較は、8倍競技・5倍競技は同数、3倍競技は3減、1倍競技は7増でありました。

続いて上位代表権獲得状況につきましては、先ほどご説明いたしましたので、ここでは省略させていただきます。代表権獲得状況の代表的な結果といたしまして、活躍が期待されながら敗退した競技としまして、8倍競技のサッカー成年男子、5倍競技のバレーボール成年男子、5倍競技の剣道少年男子であります。逆に予想以上の活躍をみせた競技といたしまして、全国トップレベルの鹿児島を破ったサッカー女子、ふるさと選手による最強チームが編成できたラグビーフットボール成年男子、福井国体6位の鹿児島を破った馬術少年団体、昨年3代表から7代表に伸ばしたボート競技などがあげられます。

つづきまして、レジュメの49ページをお開き下さい。こちらは本年度のインターハイの成績一覧であります。第1回理事会では、全国高等学校選抜大会の結果をご報告さ

せていただきましたが、今回はインターハイでの結果を検証し、PDCAを行います。資料下段のベスト8以上の前年度比較をご覧ください。まず左側、団体競技ですが、平成30年度は8団体が入賞いたしました。今年度は4増の12団体でございます。これを国体得点方式で換算いたしますと、平成30年度は81.5点、令和元年度は131点でございます。昨年より49.5点と大幅に増やしています。

次に右側、個人競技でございますが、平成30年度入賞数は34、今年度は2減の32でございます。これを国体得点方式で換算いたしますと、平成30年度は181点、令和元年度は152.5点でございます。昨年より-28.5点と大幅に減点となっております。

最後に最下段に記載しています、団体・個人の総合計で比較してみますと、平成30年度は42の入賞、262.5点。今年度は45の入賞、283.5点でございます。平成30年度と今年度と比較いたしますと、3入賞増、21点増という結果でございます。

国体換算得点だけで見ますと、昨年より同様かそれ以上の力が付いていますが、今年度のインターハイ団体上位入賞の剣道男子・ホッケー少年男子が、既にブロック大会で敗退しているため、-47.5点減点となり、昨年の換算点262.5点から47.5点を引くと昨年より-26.5得点を減らしている状況であります。九州ブロック大会での代表権数が前年から増えたことだけを見て茨城国体での「天皇杯得点1,000点」の達成が楽観視できるほどの状況では決してございません。ブロック大会で期待されながら敗退した競技の得点合計は、80点と分析しています。この得点をどう挽回していくかを考えますと、今後の強化が非常に重要となります。恐れ入りますが、再度48ページを御覧ください。茨城国体天皇杯得点1,000点獲得に向けた条件であります。無得点競技を減らし、競技得点獲得数を25競技以上に増やし、その内の10競技で30点獲得、5競技で50点以上獲得することがチーム大分の目標となります。この得点獲得モデルである、25/10/5を実現することが、1,000点獲得の条件と考えます。今後、九州ブロック大会・インターハイの反省を基に、本番まで解決すべき事を整理し、現地練習会など積極的な強化策を計画・実行していけば、茨城国体での「天皇杯得点1,000点」の挑戦権はあると考えています。開催まで残り僅かな日数ですが、各競技団体並びに大分県競技力向上対策本部と連携して、効果的な強化を推進してまいりたいと思います。令和元年度国民体育大会第39回九州ブロック大会成績ならびに第74回国民体育大会に向けた競技力の現状についての報告は以上です。

(麻生議長が、報告事項(3)(4)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

#### 【(5) スポーツ団体ガバナンスコードについて】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下説明内容。

それでは、報告事項(5) スポーツ団体ガバナンスコードについて報告いたします。レジュメの50ページをお開きください。概要を説明させていただきます。

近年、NF(中央競技団体)を始めとするスポーツ団体のガバナンスの機能不全により、スポーツの価値を毀損するような様々な不祥事案が生じたり、スポーツ指導の現場における暴力行為等が度々報じられ、スポーツ基本法の理念が実現に向かっているとはいえない状況にあります。このためスポーツ庁は、平成30年12月に策定した「スポーツ・インテグリティ、すなわち、＜誠実性・健全性・高潔性＞の確保に向けたアクションプラン」において、スポーツ基本法第5条第2項に規定する、スポーツ団体における自ら遵守すべき基準の作成等に資するよう、適切な組織運営を行う上での原則・規範として、スポーツ団体ガバナンスコードを策定することとなりました。これは、単に不祥事案の未然防止にとどまらず、スポーツの価値が最大限発揮されるよう、その重要な担い手である、スポーツ団体における適正なガバナンスの確保を図ることを目的とされています。ガバナンスコードの対象団体は、特に高いガバナンスの確保が求められる「中央競技団体向け」と中央競技団体に該当しないスポーツ団体の「一般スポーツ団体向け」の2層構造となっています。

レジュメ51ページに適用対象の図表を掲載しています。本会は、「一般スポーツ団体向け」にあたります。規定についてご説明いたします。中央競技団体向けのガバナンスコードについては、本年6月10日にスポーツ庁長官へ答申され、正式に決定されました。NF向けは、高いレベルのガバナンスを確保する観点から、13の原則によるガバナンスコードが策定されています。コードの内容は、別冊資料として2種類のコードをお配りしていますが、別冊資料NF向けの6ページをお開きください。1例をあげますと、原則2「適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである」とあり、その中身は、外部理事の割合を25%以上、女性理事の割合を40%以上とする目標を立てた上で、目標達成に向け、具体的な取り組みを示す内容や、アスリート委員会の設置、理事による強権的・独占的な運営を防ぐため、競技団体に対して理事の在任期間を原則連続10年までとするなどの内容となっています。8ページをお開きください。原則9「通報制度を構築すべきである」とあり、パワハラや暴力に対応するため、弁護士などを中心とした通報制度の整備も含まれています。

続きまして、本会や、本会加盟団体が該当いたします「一般スポーツ団体向けのガバナンスコード」につきましては、8月27日に正式に決定されました。一般スポーツ団体の適正なガバナンスを確保するために、共通的に求められる組織運営上の原理・規範を示す原則1～原則5と、高いレベルのガバナンスの確保が求められると自ら判断する一般スポーツ団体が、追加的に自己説明及び公表を行うという原則6のいわば「二階

建て」の構造となっています。

別冊資料「一般スポーツ団体向け」の4ページをお開きください。1例をあげますと、原則1(4)には、「適切な団体運営及び事業運営を確保するための役員等の体制を整備すること」とあり、6ページの補足説明には、NFの地方組織は、NFに準じる公共性の高い団体であると認められ、NFの地方組織は、NF向けガバナンスコードの原則2を参照しつつ、役員等の多様性及び理事会の実効性の確保、役員等の新陳代謝を図る仕組みの構築等に取り組むことが望まれるとあります。この原則1(4)に書かれています、NFの地方組織とは、本会が該当いたします。続きまして、原則3(1)には、役職員に対し、コンプライアンス教育を実施すること、又はコンプライアンスに関する研修等への参加を促すこととあります。

今回、「一般スポーツ団体向け」がスポーツ庁より公表されましたので、本会といたしましては、ガバナンスコードの原則を遵守し、自身のガバナンスの確保・コンプライアンスの強化を行い、本会加盟団体へは、組織運営や業務執行に問題があると考えられる時は、適切な指導、助言及び支援を行っていきたくと考えます。以上でスポーツ団体ガバナンスコードの報告を終わらせていただきます。

(麻生議長が、報告事項(5)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

#### 【(6) 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度について】

仲摩事業部長が上記事項について説明。以下説明内容。

現在、日本スポーツ協会が制度の策定作業を進めています総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度について説明をさせていただきます。まず、総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が、身近な地域でスポーツに親しむことができ、子供から高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されているスポーツクラブです。

レジュメ52ページの1「総合型地域スポーツクラブの現状」ですが、我が国では、平成7年度から総合型クラブの育成が開始され、平成30年のスポーツ庁の調査では、全国で3,599クラブ、全国の市町村の80.8%になる1,407市町村で育成されています。本県では、全市町村に44クラブが現在育成されています。しかし、近年では、クラブの育成が始まった当初に比べ、創設クラブの減少や廃止・統合により、総合型クラブのクラブ数や育成されている市町村数の増加は緩やかになってきています。また、クラブの経営面では、自己財源率が50%以下のクラブが43.5%となっており、多くのクラブが市町村からの補助金等を受けている現状です。また、地域課題の解

決に向けて、行政と連携して取り組んでいるクラブの割合は2割に満たない現状です。さらに総合型クラブ自らが行う取組である自己点検・評価の実施率は、スポーツ庁の調査では17%にとどまるなど、いまだ組織体制や財務基盤のせい弱な総合型クラブが多いなどの諸課題があります。そのような諸課題があるなか、2の「登録・認証制度に向けた国の動向」を枠の中にまとめています。

特に4つめの○の平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」では、総合型クラブが今後も持続的に地域スポーツの担い手としての役割を果たしていくため、これまでのクラブ数の量的拡大から質的な充実により重点を移して施策を推進するとあり、具体的施策の一つとして、枠内にあるように「国は、日体協等と連携し、総合型クラブによる行政等と協働した公益的な取組の促進を図るための登録・認証等の制度の枠組みを策定し、これに基づき、日体協及び各都道府県体育協会等は、関係団体と連携し、総合型クラブの登録・認証等の制度を整備する」と記載されました。そして、6つめの○にありますように、平成31年2月22日付けで国は「登録・認証の基準」、「制度の運用体制」についての枠組みを策定しました。

現在、日本スポーツ協会は、それらの国の定めた枠組みに基づき都道府県体育協会からの意見聴取等を行い、最終的な制度の策定に向け、作業を進めているところです。

次に、レジュメ 53ページの3「登録」と「認証」のイメージを定義と図で示しています。まずは、(1)の登録に関する図をご覧ください。登録を希望するクラブは、登録に必要な基準を満たす必要があります。この基準は2つあり、基本基準と、その上に点線の枠組みで囲っている各都道府県協議会独自基準となります。この独自基準は各県の実情に応じて任意に設けることができるものとなっております。なお、登録基準には必ず満たすべき運用ルール、これは全国統一のルールです。それと、その上に各都道府県協議会独自の運用ルールを各県の実情に応じて任意に追加することができることとしており、クラブからの申請に基づき、後ほど説明します各都道府県の登録審査委員会が「登録基準」に合致したと判断した場合に、制度の運用主体となる都道府県体育協会が総合型クラブとしての名簿に記載することとなっております。

次に、(2)の「認証」についてですが、登録したクラブが登録手続きを完了した後に、さらに自らのクラブの特徴に応じた認証を希望する場合に任意で申請することを可能とするものです。ただし、「認証に関する制度」については、まだ原案の提示には至っておりません。このため、認証基準も今後日本スポーツ協会にて引き続き検討することとしています。

次に、レジュメ 53ページの下段の4登録・認証制度導入による効果と懸念される事項についてです。6月に行われました登録・認証制度の説明会では、制度導入による効果について、日本スポーツ協会や都道府県体育協会が認めたクラブとして社会的な認知度の向上や行政における理解も促進されますとの説明がありました。また、総合型クラブ連絡協議会が体育協会の組織の一部となることにより、ガバナンスが確立される

とともに、中間支援組織となる都道府県体育協会が、研修会等の開催や先進事例の情報発信等を行うことにより、P D C Aサイクルの定着による運営の改善等を図る総合型クラブの増加が期待できるなど総合型クラブの質的充実を推進することができるとの説明がありました。一方、懸念される事項としては、平成29年に実施した「登録制度に対する都道府県体育協会の意見聴取の結果」では、「登録に関わる費用の発生」や「自発的な運営という総合型クラブの理念との矛盾」、「登録要件に合致するクラブとしないクラブが出てくる可能性がある」など多くの不安の声があげられていました。

次に、レジュメ54ページの5の「登録・認証制度」の運用体制図でございます。上段の図は現在策定作業を進めています登録・認証制度の基盤として考えられている総合型地域スポーツクラブ全国協議会を中心とした体制図を表したものです。図の左側に、日本スポーツ協会を置き、右側に都道府県レベルの組織を記載しています。日本スポーツ協会では、総合型クラブを所管する委員会の下に全国協議会を設立しています。右側の都道府県協議会は、各県によって運営の状況が様々で、右上にございます各都道府県体協や広域スポーツセンターからの支援体制も各県によって違っています。また、各クラブは各都道府県協議会へ加入をしておりますが、加入基準は都道府県ごとに様々であり、統一した基準が無いのが実情です。

下段は、現在日本スポーツ協会が制度原案でお示ししている登録に関する制度の運用体制図となります。図の左側に、日本スポーツ協会を置き、右側に都道府県レベルの組織を記載しています。左側の日本スポーツ協会では、総合型地域スポーツクラブ全国協議会を日本スポーツ協会の定款に基づき設置することとしております。また、右側の都道府県レベルでの組織体制は、都道府県協議会を都道府県体協が設置した組織として位置づけ、都道府県協議会、都道府県体協、都道府県行政の3者が登録・認証制度という一つの共通理解を基に役割分担をしていくというイメージになっています。

最後に、記載はしていませんが、日本スポーツ協会の示す今後の流れといたしましては、今年度中に日本スポーツ協会において、本制度を策定し、令和2年度中に各都道府県の制度を策定、令和3年度からの制度の運用を開始するとしています。本会としましても、日本スポーツ協会の動向やモデル事業の検証結果等を注視し、「おおいた広域スポーツセンター」、「大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」と連携しながら、協議を進めてまいりたいと考えております。以上が、現在日本スポーツ協会が示しています登録・認証制度の概要でございます。

(麻生議長が、報告事項(6)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

## 5. 閉会のことば

渡邊総務部長が閉会のことばを述べた。



令和元年 月 日

会 長 麻 生 益 直

副会長 工 藤 利 明

監 事 武 石 哲 也

監 事 矢 部 正 秋